

TAKE FREE

静岡市女性会館 情報誌

WAVE 103

号

ここから、はじまる ここで、つながる

2026.10



特定非営利活動法人全国女性会館協議会 第70回全国大会 in 静岡

WAVE SPECIAL INTERVIEW

まず動いてみる！ 地域とつながる防災の未来

2025年度相談実績報告

講座終了レポート

AICEL TOPICS

図書コーナーおすすめ本紹介



編集 静岡市女性会館
発行

特定非営利活動法人全国女性会館協議会 第70回全国大会 in 静岡

基調講演

「日常化するAIが加速させる ジェンダーバイアス」

メディア文化とジェンダー論が専門の田中教授は、AI関連企業と連携してAI倫理をジェンダー平等の視点で検証する研究に携わっていることから、AIになぜバイアス(偏見)が生まれるのか、その仕組みと注意点を解説しました。



講師 田中東子さん
東京大学大学院 情報学環 教授

AIの情報はオリジナルではない

「ChatGPT、Geminiといった生成AIだけをイメージしがちですが、園芸や料理法をネットで検索すればその裏にAIがあります。ネットで買い物すれば次々に似た商品が紹介され、天気予報を見れば居る場所に合わせた情報が出てくる。日常の

中にAIやアルゴリズム(計算手法)が入り込んでいるのです」

問題はAIが学習する仕組みを一般の人が気づかないことだと指摘します。

「AIは膨大なデータから学習し、パターンを特定することで予測や意志決定を行う

という仕組みで、オリジナルな情報をつくっている訳ではありません。私たちが利用すればするほど個人の好みや趣味などさまざまなデータが吸い上げられ、さらされていきます」

社会の格差や偏見を学習

AIに「大学教授の絵を描いて」と頼むと3回とも男性の絵が出てきたフランスのドキュメンタリー番組の事例を挙げ、こうした情報の偏りを生む原因として田中教授は①入力されるデータに偏りがある②設計に関わる性別や人種、価値観に偏りがある③それを受け取る情報環境も各個人に関心のある情報だけが届く環境となっ

ている一の3点を挙げます。

「AIは数の多い情報、力の強い情報から紐付けて覚えていきます。少数派や影響力が少ない情報は消去される。女性より男性、若者より高齢者、肌の色の濃い人より薄い人、というように社会の格差や差別的な価値観を学習して出力する傾向があります。またネット空間ではユーザーを



標的にするアルゴリズムによって、使ううちに狭い情報空間に閉じ込められていきます。関心のない情報は排除されるので視野は狭まり、似た意見集団の中で、例えば差別的な意見や偏見が反復、強化されるメカニズムが働きます」

批判的に読み解く力を

20世紀後半には希望的な展望で捉えられたメディアやテクノロジーの進展が、現在ではフェイクニュースのまん延や狭い価値観の増幅など民主主義への脅威とも考えられています。

「AIは偏見を生成するだけでなく増幅します。中立ではないし、必ずしも客観的であるとも正しいとも限らない。それを意識して批判的な視点で読み解くこと。目の前に出てくる情報やデータを疑い、問い直す

ことが大切です。新聞やテレビ、図書館などで得られる情報と比べ、利用する際はきちんと指示を出し、多様性やジェンダー平等の視点をAIに仕込んでいくことが大事です」と提案しました。

NPO法人全国女性会館協議会の第70回全国大会が7月29、30日の2日間、静岡市女性会館で開かれました。今回のテーマは「AI(人工知能)時代の男女共同参画センターの役割」。

東京大学大学院の田中東子教授による基調講演は、一般参加者も合わせて約130人が聴講しました。基調講演と後半のトークセッションの概要を紹介します。



トークセッション

「デジタル格差解消と ジェンダー主流化」

対談者 田中東子さん 高丸理香さん
モデレーター 野村浩子さん



高丸理香さん
大妻女子大学 人間共生学部 准教授



野村浩子さん
公益財団法人日本女性学習財団 理事長

後半のトークセッションは大妻女子大学の高丸理香准教授が加わり、日本女性学習財団の野村浩子理事長がモデレーターとなって「デジタル格差とジェンダー主流化」をテーマに意見を交換しました。

田中教授は急増するオンライン上のジェンダーに基づく暴力(OGBV=Online Gender-Based Violence)の深刻さと対策の必要性を訴えました。

「デジタル空間では性別を理由にした誹謗中傷や嫌がらせ、憎悪などの攻撃が簡単にできてしまいます。それにより就労や発言機会を喪失するといった状況が発生して、現実の空間で物理的な被害に

高丸准教授は新たな可能性を開くアプローチとして注目される「ジェンダード・イノベーション(GI)」について、「技術開発分野に欠落してきたジェンダーの視点を組み込み、新たな価値を創出する概念。

なります。経済的な破壊行為と位置付ける研究者もいます。国連女性機関でも重要な人権侵害だと警告し、女性の安全、表現の自由、社会参加、労働や民主的意志決定への参加を妨げていると指摘しています。オンライン上の人権侵害は社会的な課題として掲げなくてはなりません。国の対策が急務です」

高丸准教授も「ユーザー間の格差やデ

ジェンダー主流化にもつながる」と説明し、無意識の偏見に気づくために提唱されている3つのステップを紹介しました。

デジタル社会がもたらすさまざまな格差を縮めるための教育やルールづくりが必要」と指摘しました。田中教授は「一度開発された技術は使わざるを得ません。幸せな社会にどう結びつけるか。全国的女性関連施設も情報共有し、ガイドラインを設けるなど歯止めの仕組みづくりに取り組んではどうか。賢く使うために一緒に考えていく機会を作っていきましょう」と結びました。

ステップ1

数を整える=女性や少数グループの参加を増やす

ステップ2

制度を整える=組織等の構造を変えて平等を促進する

ステップ3

知識を整える=セックス(生物学的な性別)やジェンダー(社会的文化的に形成された性別)に配慮した知識の再検討“性差分析”を行い、社会にどんな不具合や不平等がおきているか可視化する

「アルゴリズムが性別によるステレオタイプを増幅する可能性やAIを用いた信用情報や人事評価で女性が低く査定されるといった問題があり、GIにはそうした偏見の検出や軽減技術の開発も期待されています。性別だけでなく年齢や人種、障害の有無などの要素が重なり合う部分での不平等も可視化されるので、女性の味方にもなるし誰の味方にもなる。家事や子育て、働きやすさなどニーズ開発のきっかけにもなります」

まず動いてみる！ 地域とつながる防災の未来

女性会館では2018年度より、防災分野で女性が主体的な人材となることを目指し「Jo-Shizu防災講座」を開催してきました。

今回お話を伺ったのは、2019年度修了生で地元信用金庫に42年間勤められた藤澤さんです。東日本大震災を機に被災地ボランティアや防災活動をスタート。定年退職後に自宅隣へ「防災ハウス」を開設された経緯や、行動を起こすためのマインドをお聞きました。

信用金庫に勤めた経験で今に生きていることや、防災活動に関心を持ったきっかけを教えてください

当時は、結婚して子どもを預けて働くことが主流ではなく葛藤もありましたが、仕事のやりがいや保育園の支えもあり定年まで勤めることができました。後輩を指導する立場であったため、いろいろな人とのコミュニケーションや取りまとめ、会議、提案の仕方なども今の活動につながっています。東日本大震災を機に「何かしなきゃ」と強く思い、会社の休暇制度を利用して現地支援に通いました。現地に行くことと指示された場所の中で、誰ともなく大変そうなところに率先して手を出していきましました。仕事の時とは違う不思議な居心地の良さや学びがあり、良いつながりがたくさんできました。

そこから、どのようにして今の活動へつながっていったのでしょうか？

その後も熊本や能登などへ出向きボランティアを続けながら、現地の情報交換でいろいろ教えてもらったり、防災講座へ参加していました。勉強していくうちに、「次は自分がみんなに伝えないと」と感じたんです。そんな中、たまたま同じ自治会の人と「いざ自分の地域が被災したらどうする？」という話になり、地域と関わる大切さを実感して当時の自治会長に話をしに行きました。当時の自治会長は女性で小学校の校長先生をされていた方だったので、女性も上に立つのは当たり前という感覚があり、とても話しやすかったのを覚えています。私の自治会役員は当時から男女比も半々でした。男性役員の言うことをそのまま受け入れるのではなく、女性も半分いる中で自分の思いをしっかりと伝える環境があったのも心強かったですね。女性会館の防災講座にも参加していたので、会議の中では女性の視点から「生理用品やおむつなどの防災用品が必要」などと提案することもできました。そうやって、少しずつ地域での活動も広がっていきましました。



高校卒業後、地元の信用金庫に42年間勤務。2011年の東日本大震災を機に災害ボランティアを始め、現在は「復幸ボランティアやらざあ駿河」の共同代表として、防災に関するさまざまな活動を行っている。私費を投じて一軒家を借り、防災グッズやアイデアを詰め込んだ「防災ハウス」を開設・運営している。自治会役員も務めている。

藤澤弘子さん

ご自宅の隣に「防災ハウス」を作ろうと決意したきっかけや、今後のビジョンを教えてください

これまで集めた防災グッズの展示や保管ができ、ボランティア仲間や地域の方とも交流ができ、防災を伝える場所を探していたら、たまたま自宅の隣が賃貸に出て、とりあえず2年間やってみようと思い切って始めました。最初は夫も心配していましたが、話し合っって決断に至りました。静岡って、ちょっと揺れただけで、コンビニやスーパーから水が無くなったりして、「事が起こってから動く」人がまだまだ多いんだなって感じています。完璧じゃなくていいから、物の備えと知識の備えをしてほしい。避難所でどうなるか「想像する」ことの大切さを、少しずつ伝えていきたいです。

防災ハウスの資金面は課題ですが、1年単位である程度自由にぼちぼちやりたいと思っています。一番は、ここ丸子新田の人にもっと来てもらいたい、知ってもらいたいですね。周りの人を巻き込み、メディアの力も借りながら、まずは丸子新田から、だんだん広がってほしいなと。被災するのは免れないかもしれないけれど、そのあとみんなで助け合える地域になるのが私の理想です。

仕事以外の居場所ややりがいを見つけたい、動き出したいと思っている人へアドバイスをお願いします

何でも少しでも関心があったら、まず自分から動いてみることです。私は、なるべく自分から壁を作らないで、「初めてのことを誘われたら断らない」を大切にしています。苦手だなあと思っても参加してみると、意外な発見や思いがけない出会いがあります。あと、災害への備えとして、隣近所とつながっておくことも大切なので、ぜひ、ご近所の方と挨拶だけでなく、ちょっとお話ししてみる、地域の行事に参加してみることも大事だと思います。

2025年度相談実績報告

当館の「女性のための総合相談」では、電話相談、面接相談、女性弁護士による法律相談、同行支援を実施しています。

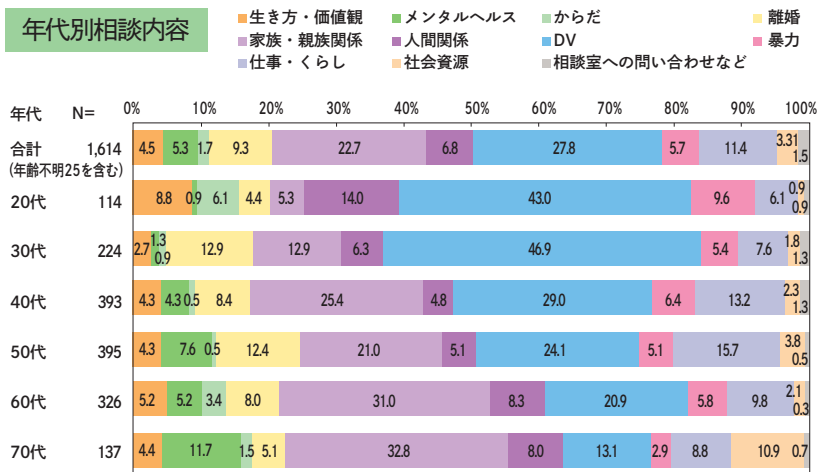
2025年度の相談総件数は1,614件で、前年度から120件減少しました。AIに相談して夫の暴力に気づいたり、AIから紹介され相談室につながったりするケースもあり、AIへの相談が件数減少の一因と推測されます。

相談総件数が減少した一方で、電話相談の新規利用者は前年度より46人増えました。年代別にみると「20代以下」からの相談が33件増え（前年比42%増）しました。その内訳はこれまで多かった「メンタルヘルス」の相談が減り、元恋人や知人からのつきまとい、夫や交際相手との妊娠・中絶、金銭をめぐるトラブルなど深刻な相談が増えました。

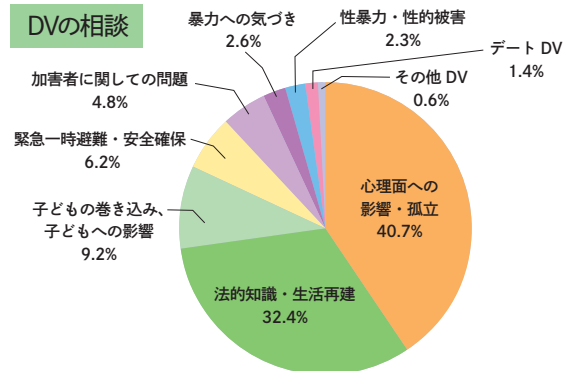
全体をみると相談内容は「DV」が449件（前年比15%増）で、最も多く、「70代以上」以外のすべての年代で「DV」の相談が増加しており、より慎重な対応を必要とする場面が拡大しています。「DV」相談のうち40.7%が「心理面への影響・孤立」、32.4%が「法的知識・生活再建」に関するものでした。

相談室では利用者の気持ちに寄り添うことはもちろん、生活再建に向けて実効性のある情報提供を心掛けています。

年代別相談内容



DVの相談



講座終了レポート

2025
12/14

準備OK『小1の壁』の乗り越え方

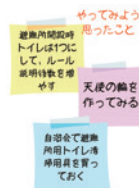


働く母親が直面する「小1の壁」をテーマに、育休後シニアアドバイザーの土屋忍さんが仕事と子育ての両立に向けた準備や心構えを解説。さらに、先輩ワーキングママ2人が、実際の困りごとや工夫を交えた体験談を紹介しました。参加者の約半数が年少・年中児の母親で、早い段階からの関心の高さがうかがえました。

感想 『『小1の壁』の課題がわかり、具体的な準備や工夫のイメージがわかりました』『知らなかった情報やリアルな話が聞けてよかった。完璧を目指さないという言葉が心に響きました』

2026
2/28

Jo-Shizu防災フォローアップ講座 災害時のトイレについて考える



実際に被災地で支援活動を行った椿佳代さんをお招きし、避難所で直面した「トイレの現実」について、リアルな体験談をお話いただきました。ワークショップでは、災害時に起こりうるトイレの困りごとやその対策について理解を深め、参加者からも「これをやってみよう」と思える具体的な行動が多く挙げられました。

感想 「携帯トイレの正しい使い方、必要な材料、注意すべき点などが学べて、とても有意義だった」「椿先生の防災パワーに、私ももっとがんばらなくては…と感じた」

2026
8/23

1dayジェンカレinしずおか ※ジェンカレ…ジェンダーカレッジ



ユース世代を対象とした「1dayジェンカレ」を開催しました。講師の櫻井彩乃さんからの講義の後、身近なジェンダー課題やモヤモヤをグループで共有し、一人ひとりのアクションプランを考案。同年代が集う会場は終始活気に満ち、参加者はワークを楽しみながら学びを深めました。

感想 「話を聞くだけでなく、年の近い人と交流ができて新たな考えを持てた」「ジェンダー平等について自分が研究したいことがはっきりした」

AICEL TOPICS

学習スペースを開放



4/28～6/30の間、静岡市による「学習スペース創出モデル事業」が、市役所静岡庁舎とアイセル21の2施設で実施されました。この事業は、公共施設を学習スペースとして利用したいという学生からの要望を受けて実施されました。

アイセル21では、1Fラウンジと図書コーナー、2F団体活動室の3か所が学習スペースとして開放され、学生が利用しやすいように、フリーWi-Fiの提供など学習に適した環境が整えられました。ラウンジと団体活動室は飲食と会話が可能なため、グループで学習したい学生に人気でした。

今回のモデル事業が好評だったため、市は当面の間この取組の継続を決定しました。なお、フリーWi-Fiは期間限定のため、現在は利用できません。詳しくは市のHP内にある「学習スペースとして利用可能な公共施設」をご確認ください。

「子ども室のじかん」はじまりました



図書コーナーでは、毎月1回未就園児とその保護者を対象に絵本の読み聞かせやわらべうたを楽しむ「えほんのじかん」を開催しています。5月から子ども室へ場を移し、午前11時から12時30分までを「子ども室のじかん」として開放、「えほんのじかん」は11時20分頃から行っています。子ども室ではおしゃべりや飲食も可能です。あかちゃん絵本、子育てに関する雑誌や本をそろえた出張図書コーナーもあり、その場で貸出もできます。絵本を読んだり、食事をしたり、情報交換をしたりと思い思いにお過ごしいただけます。今まで通り、絵本専門士の司書がいますので、本に関するお悩みもご相談ください。参加者からは「広くてごはんも食べられ助かる」「子どもが自由に過ごせて安心」といった声をいただいています。申し込み不要ですのでお気軽に子ども室までお越しください。（開催日程は女性会館HPでご確認ください。）

アイセル21消防訓練



静岡市女性会館は、毎年2回、静岡市葵生涯学習センターとの合同防災訓練を実施しています。今年は7月13日の休館日に消防訓練を行いました。

アイセル21に勤務する職員が一堂に集まり、防災設備管理会社から館内に複数設置されている防災、消防設備の機能説明を受け、操作方法を学びました。非常放送マイクの操作、地下駐車場で水消火器による消火訓練、屋上では救助袋の設置場所を確認して、火災時に迅速に対応できるよう備えました。

後半の避難誘導訓練では、平日午前の火災発生を想定し、指揮者、情報収集・提供班、消火班、避難誘導班に分かれ、消防署への通報、非常放送、初期消火などを実施し、集会室に待機している来館者役の職員の避難誘導をしました。

訓練を通じて、組織の異なる職員とともに、緊急時において利用者を適切かつ安全に守る方法を再確認しました。

夏季特別展示「mirai keyみらいキイ」展 7/22～7/31



1975年の国際婦人年から50年。世界は「誰一人取り残さない社会」の実現を目指し、ジェンダー平等への歩みを続けてきました。この展示では、国連が示す世界の約束から身近な暮らしへと視点を移し、「見えない思い込み」が私たちの選択や可能性に与える影響を考えられるよう工夫しました。

展示は「50年の歩み→身近な課題→私たちの周りの固定観念→思い込みを手放す→ジェンダード・イノベーション未来への一歩」という流れで構成。参加型コーナーでは、来館者が思い込みを書いたメモをパネルからはがしてゴミ箱パネルに貼り、「思い込みを手放す」体験を通して、自分の中にあるジェンダード・イノベーションの視点が未来への鍵keyになることに気づける仕掛けになっています。

図書コーナーおすすめ本紹介

男女共同参画の視点から図書コーナーに所蔵されている本をご紹介します。

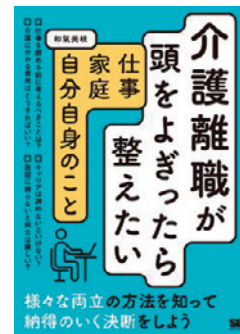
図書コーナーの4人の司書が1冊ずつ選びました。あなたの“次の1冊”が見つかるかもしれません。



『地方女子たちの選択』

編著者名：上野千鶴子・山内マリコ 藤井聡子 協力
出版社：桂書房

ともに富山出身かつ富山を出ていった上野千鶴子と山内マリコの対談を機に生まれた1冊。本書の軸は、立場の異なる14人の女性のライフストーリーです。富山にとどまる人、出ていった人、戻ってきた人、やってきた人……、様々な選択を経た彼女たちに共感する読者も多いことでしょう。それらを伝えることが、富山に生きる女性の選択肢を増やすことにつながると聞き取りを行った藤井は述べています。「変わるべきは社会」という上野の言葉に、同じ「地方」の静岡の問題でもあったと考えさせられます。



『介護離職が頭をよぎったら整えたい 仕事・家庭・自分自身のこと』

編著者名：和氣美枝 出版社：green seed books

本書冒頭にあるように、介護は突然始まるのです。私の場合は自転車で母が転んだことからでした。退院の後、以前のようにには動けない母。介護支援を受けられないか問い合わせた私に「介護認定は受けていますか？」の言葉。それってどこで？どうやって？からの目まぐるしい日々。そうなる前にこの本を読んでおきたかった。まだまだ大丈夫と思っている方も、介護中の方も質問、回答形式でとてもわかりやすいこの本を是非読んでみてください。



『子どもの本でジェンダーレッスン 学びたいあなたのためのブックガイド』

編著者名：藤木直実・吉良智子・神保和子・中西恭子・宮下美砂子
出版社：かがわ出版

ジェンダーに関心はあるけれど内容がよくわからない、子どもにどんな本を手渡したらいいか迷っている、そんな方に役立つブックガイドです。厳選された本の紹介文にある解説からもジェンダーを学ぶことができ、解説の参考とされた本も読んでみると学びがどんどん深まります。興味のある項目からキーワード検索ができるので、今の自分が求めている本を見つけ出すことができます。掲載されている多くの本が当図書コーナーに所蔵されています。



『子育ても仕事もうまくいく 無理しすぎないスウェーデン人』

編著者名：佐藤吉宗 出版社：日経BP

子育てしやすい国として評価されているスウェーデン。夫婦共働きが一般的であり、勤務時間は日本と比較して短いながら、GDP、平均年間賃金は上回り、子どもの精神的幸福度も高くなっています。しかし30年前には日本と同じように性別役割分業が残る社会だったのです。それがなぜ、現在のように変化できたのでしょうか？この本では、夫婦でスウェーデンに暮らす著者が、自身の子育て経験を交えて社会の変革プロセスや現在の共働きでの子育てスタイルについて解説しています。

図書コーナーご案内



図書コーナーは、男女共同参画社会実現のために、情報の力でエンパワーメントすることを目的としたジェンダーに関する専門図書室です。

資料の貸し出しのほか、調べ物やさまざまな疑問に対して、参考となる資料の紹介や情報の提供を行っています。どうぞお気軽にご相談ください。

- ◆ 場 所 静岡市女性会館1F
- ◆ 利用時間 (平日) 9:00～19:00
(土日祝) 9:00～17:00
- ◆ 休 館 日 ・第2・4月曜日
・年末年始(12/28～1/4)
・蔵書点検期間ほか

◆ T E L 054-207-8811(直通)

◆ 貸出点数 図書、雑誌、CDあわせて10点まで

◆ 貸出期間 2週間

◆ 貸出方法 貸出には図書コーナー専用の貸出カードが必要です。住所・氏名・生年月日が確認できるもの(免許証、マイナンバーカードなど)をお持ちくださいればその場で発行します。



相談無料
秘密厳守

女性のための総合相談

ひとりで悩まないで、まずはお電話を

結婚・離婚、恋愛、夫婦のこと、親との関係、子どもとの関係、DV、暴力・虐待、セクハラ、職場の人間関係、経済的困窮、妊娠・出産、子育て、これからの生き方など…

受付時間	火	水	木	金	土
9:00～13:00	○	○	9:00～11:00	○	○
14:00～17:00	○	○	○	○	

電話相談の事前予約は不要です。まずはお電話ください。

女性会館 相談専用ダイヤル ☎ 054-248-1234

祝日、年末年始を除く

女性相談員による面接相談 (予約制/1回 50分) 電話相談のあと、ご希望や必要に応じてご利用いただけます。

女性弁護士による法律相談 (予約制/1回 30分) 第1土曜日・第3木曜日 14:00～17:00
弁護士への相談がスムーズにできるよう、ご予約の際に相談員が相談内容をお伺いします。

予約制
面接
事前申込

40代以下の女性のための 就職・転職・キャリア相談

HPにてご予約ください。
事前に相談シートをお送りします。

申込受付日時	同月の1日(1月のみ5日) 12:30より 1日が休館日の場合は翌開館日
面 談 日	毎月第3水・金・土曜日 ①10:30～11:20 ②13:30～14:20(1回50分)

アイセル21 にじいろ電話相談

セクシュアリティや性別違和で悩んでいる方、
または周囲の方からのお話を伺います。

- 恋人やパートナーのこと
- 誰にも話せなかったこと
- これまでの自分・これからの自分のこと
- 学校、職場でのこと
- 家族のこと など

にじいろ ☎ 054-248-2216

毎月第2土曜日 14:00～17:00

静岡市女性会館(アイセル21)

所在地 静岡市葵区東草深町3-18
開館時間 9:00～21:30
休 館 日 第2・4月曜日、年末年始(12/28～1/4)
T E L 054-248-7330
F A X 054-246-7833
E-mail mail@aicel21.jp
H P https://aicel21.jp



バス
JR静岡駅北口10番のりば
県立病院高松線
「アイセル21」前下車

徒歩
JR静岡駅北口より30分
静鉄新静岡駅より20分
日吉町駅より15分



静岡市女性会館 情報誌 WAVE103号

発行年月: 2026年10月

編集・発行: 静岡市女性会館

指定管理者 NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか



静岡市女性会館は講座、情報、相談などの事業を通してSDGsのゴール5「ジェンダー平等の実現」を目指しています。「ここから、はじまる ことで、つながる」を合言葉に、女性会館という「場」を最大限に生かし、平時時も災害時も地域のネットワークの拠点として会館運営に取り組みます。

